



はあもにい 第 4 5 号

- 発行日 2016 年 4 月 10 日
- 発行 多機能型事業所ポプリ
生活介護事業部
- 編集 機関誌「はあもにい」
編集委員会
(0144) 87-3800

社会福祉法人 白老宏友会 法人運営・職員のスキルアップにおける取り組みについて 合格おめでとう！！

第28回介護福祉士国家試験に向けて昨年5月から実技講習会や試験対策勉強会等休日や夜遅くまで努力をされてきた職員の皆様ご苦労様でした。白老宏友会は全国平均を上回る合格率でした。

祝 第 28 回介護福祉士国家試験合格者 16 名！！ その他資格取得 社会福祉施設 施設長認定資格取得者 1 名！！ 平成 27 年度 法人職員研修報告並びに研究発表会について

K・Iさんのケース事例～個展をめざす！アート活動を通して～	生活介護事業所「愛泉園」	支援主任	丸山 貴俊
利用者が望む地域生活を支援して～T・Bさん、H・Sさんの事例～	地域生活支援センター「あぶろ」		堀 功路
T・Sさんのケース事例～障がい特性へのアプローチと医療連携～	生活介護事業所「みらいえ」		佐々木 裕樹
Y・Kさんのケース事例～理解すべき行動とは何か…支援経過を通して～	多機能型事業所「ポプリ」	支援係長	杉本 誠力
健康診断の結果分析より見えてきた健康課題～高齢化に向けた結果を考える～	特定相談支援事業所「ゆから」	支援課長	高谷 有佳子
北海道障がい者 虐待防止・権利擁護研修 地域生活支援センター	地域コーディネーター		土門 誠



法人運営、職員のスキルアップの一環として平成 25 年度より開催し 1 回目は、先進地視察研修（雲仙コロニー）報告を主にケース紹介等の発表があり、宏友会の運営や利用者支援が他事業とどのような違いがあるのか生の目で見たり聞いたり話してきたことが大きな刺激となり日常支援に反映されたものと思われる。

昨年度は、法人設立 30 周年記念式典に合わせ実践発表が実施され、地域の中で普通に暮らす支援の「職住分離」という形態の中で、職員間の適切な情報共有に欠けてしまうことを、それぞれが積極的な発表によりお互いの成果を結びつける機運が高まってきた。

さらに、本年は年度末の時期にずれ込んだ実施となり、大変ご迷惑をお掛けしたにも関わらず、当日は役職員 87 名の参加をいただき職員の研究発表に対する意識の高さを認識するとともに、事例 4 件、調査 1 件、報告 1 件の発表内容は研究発表の意義でもある自らの成果を公開することで、研究成果が還元され、評価・意見・指摘を得る機会となり日常支援のコミュニケーションを充実させていくものと思われた。

障がい者総合支援法の理念にもあるように、人間が相互に人格と個性を尊重し合う上でのサービス事業所としては、語り次いでいくひとつとして、この発表会が継続していくことが責務であろうと考えています。

発表者の皆様に感謝を申し上げます。

社会福祉法人白老宏友会 常務理事 茂木 静

* * * * * 多機能型事業所 ポプリ * * * * *

生活介護事業部 第一回冬季体育祭

2月19日(金)白老町総合体育館 柔剣道場にて第一回冬季運動会が開催されました。利用者の皆さんは、開催の2週間前から、競技に使用する道具を制作し、準備に取り組んできました。当日は、ポプリ仲間の会会長を務める福山祥子さんの開会の挨拶から始まり、選手宣誓は、高橋一平さんが大きな声で元気いっぱいに努めました。競技は、紅組、白組と分かれサッカーの的当て、ボウリング、ゲーリング、玉入れ、選抜リレー、綱引きの全6競技を競い合いました。午前の部は、サッカーの的当て、ボウリングで成績を伸ばした白組が優勢といった状況でした。昼食は事前に希望を取って注文したホットシェフのお弁当が用意され、利用者の皆さんは満足した様子でした。午後の部では、玉入れ、綱引きで紅組が巻き返しを図り見事優勝をしました。優勝した紅組には、表彰状とトロフィーが、準優勝の白組には、表彰状が授与されました。また、最優秀選手賞には、サッカーの的当て、ボウリング、玉入れで好成績を残し、チームに貢献し大活躍した平川航大さんが選ばれ、参加した利用者の皆さんも平川航大さんの受賞は、全員一致で納得といった様子で、割れんばかりの拍手と表彰状が送られました。最後は、野田祥知恵さんが閉会の挨拶を努め第1回冬季運動会は幕を閉じました。参加した利用者の皆さんからは次回の開催を楽しみにする声が多々聞かれ、来年度も継続して実施していければと思います。 多機能型事業所「ポプリ」 生活支援員 松野裕一



新利用者さん紹介



<p>【氏名】 谷内寛季さん 【配属部署】 ななかまど</p>	<p>【氏名】 中村美里さん 【配属部署】 パン工場</p>	<p>【氏名】 赤羽拓巳さん 【配属部署】 生活介護事業</p>
---	--	--

成人の祝い

今年みらいえでは、白岩涼真さん、小和田寧々さんの 2 名の方が新しく成人を迎え、みらいえでは 1 月 14 日（木）に成人の祝いを行いました。白岩さんは袴、小和田さんは振袖といつもと違った二人の姿に、他の利用者の皆さんからは「カッコいい」「きれいだね」「自分も着たい」等といった声が多く聞かれました。最後には主役の二人を中心に記念撮影を行いました。

生活介護事業所「みらいえ」生活支援員 佐々木裕樹



ペットボトルのキャップ回収について

みらいえでは、社会貢献活動としてペットボトルキャップやリングブルの専用回収箱を設置し、回収・洗浄・拭き上げ作業を行い、白老町社会福祉協議会へ利用者の方々自らが納めに行くこと取り組みを継続して行ってきました。平成 27 年度は 1 年間でペットボトルキャップ 61kg とリングブル 15,6 kg を納める事が出来ました。ペットボトルキャップに関しては、個数にして約 30,000 個もの数を集めることが出来、協力いただいた皆様へ感謝の気持ちを伝えたく思います。ありがとうございました。今後も継続して実施していきますので宜しくお願いします。

生活介護事業所「みらいえ」生活支援員 久保田将



新利用者さん紹介

 高橋 千恵美さん H27・12・1 より利用開始	 大谷 理人さん H28・3・14 より利用開始	 黒田 健斗さん H28・3・22 より利用開始
 後藤 賢哉さん H28・4・1 より利用開始	 柴田 莉奈さん H28・4・1 より利用開始	

トートバック作りに挑戦！！

愛泉園にはクリエイティブ班という T シャツプリントなどのプリント事業を行っている班があります。平成 28 年 1 月 19 日に開催した屋内活動ではクリエイティブ班のプリント技術を駆使して、オリジナルトートバック作りを行い、利用者の皆さんに自分でものを作るといった楽しさを感じていただこうと思いました。利用者の皆さんには事前にプリントしたい文字・字体、自分の似顔絵をプリントするかを確認しました。大体の方が似顔絵と自分の名前を選んでいましたが、中には好きなアイドルの名前や、「彼女が欲しい！」などの願いをプリントしたいという方もいました。当日は文字など事前に準備しておいたものを、利用者さんにレイアウトを考えてもらいました。トートバックに専用のシートをアイロンの熱で貼りつけ完成です。自分で考え作ったものということもあってか翌日からバックを使ってきている利用者さんが多かったのはうれしかったです。生活介護事業所「愛泉園」生活支援員 赤松祐希



全ハウス合同クリスマス会

あぷろ第一支援課では、平成 27 年 12 月 19 日に白老緑ヶ丘福祉館にて全ハウス合同クリスマス会を実施しました。会場には、世話人さんが作ってくれた豪華な手料理が用意され、カラオケ大会やハウス対抗綱引き大会が行われました。綱引き大会は、お互いに座布団に座った状態で綱引きをするといった形式で行いました。勝ち抜き戦の結果、並み居る男性陣を押しつけて、女性の利用者の方がいる「すずらんハウス」が優勝をし、会場も大いに盛り上がりました。



年末・年始一泊旅行 in 登別グランドホテル・白老八幡神社

今年度も年末年始にグループホームに滞在されていた利用者さんの余暇活動として年末年始 1 泊旅行を行いました。総勢 30 名での旅行となり、夜は宴会場で夕食・カラオケで盛り上がり、イルミネーション見学・テレビを見て夜更かし・カウントダウンなど楽しく過ごす人や寛いで過ごす人とそれぞれ楽しんでいました。2 日目は朝食バイキング、買い物、初詣を楽しみました。特別な日にできる活動として今後も続けていきたいと思えます。

あぷろ第二支援課 生活支援員 小林 佳純



利用者スポットライト

竹本伸一さん・野林英司さん(生活介護事業所 みらいえ所属)

■ 昨年の12月から新たな作業として、苫小牧市内のホテルに配布する飲食店案内用の広告折込み作業が開始しました。広告の角と角を合わせる精密さが必要で、慣れない工程でありましたが、開始から三ヶ月、竹本さんからは「線と線を合わせる事が難しい、でも頑張りたい」といった言葉が聞かれるようになりました。今ではコツを掴み、一つひとつの広告を丁寧に仕上げる事が出来ています。仕事を提供して頂いた業者の方にお礼の申し上げますと共に、二人には作業の担い手として、精をだし励んで頂きたいと思います。

生活介護事業所「みらいえ」 生活支援員兼栄養士 竹田素子



竹本伸一さん



野林英司さん

平成27年度 白老町社会福祉協議会社会福祉功労者表彰式

平成28年3月23日に、いきいき4・6にて平成27年度白老町社会福祉協議会社会福祉功労者表彰式が開催され、ポプリ生活介護事業部の高橋美雪さんが、ボランティアグループ「四葉の会」にて地域福祉活動に貢献したとして表彰されました。誠にありがとうございます。 多機能型事業所「ポプリ」 生活支援員 松野 裕一



社会福祉法人 白老宏友会 平成28年度事業運営方針

はじめに

白老宏友会は、社会福祉法に定めるところの地域福祉推進という方向を理念とし、平成 24 年 2 月に入所施設「白老愛泉園」の入所を廃止し、国の基盤整備事業を活用し、用途の変更で内部改修を行い、日中支援事業所の多機能型事業所「愛泉園」(生活介護・就労継続B型)の運営に切り替え生活の場を地域の中に移行した。5 棟の 24 時間型 GH と共生型事業や短期入所事業運営や本部機能を兼ね備えた「はぁもにい」を建設し、4 年の経過の中で利用者ニーズに対応すべく「愛泉園」の多機能型を生活介護事業に転換し、新たに生活介護事業所「みらいえ」を開設、さらに 24 時間型 GH を 2 棟新設してきた。

本年は、法人将来に向けた管理者の養成を図るべく共同生活援助事業の支援充実を図り管理者を充足し、利用者状況に添った支援機能を深める為に 3 課体制とし、GH の立地状況とサービス管理、GH 毎の協力体制を充実していく為に、組織の編成と個別支援の強化に向けた体制作りを手掛けた。

しかしながら、利用ニーズと並行して受皿が充当しているとは言えず本年も日中支援事業所では定員枠外での新規利用者の希望に応え、定員総数 120 名に対して 144 名の利用総数の支援を展開していくこととなる。

その中でも、利用者の高齢化は現実味を帯びており、高齢者施設への転居など、介護内容支援の増加により職員のスキルアップの向上を図らなければならぬ、昨年度から介護福祉士など資格取得等助成金の規定整備を図り、更なる資格取得者への積極的に働き掛けを実施していくものとする。

また、高齢と同時に医療化も進んでいくことが予測され、医療ニーズの適切な対応が取れるよう看護師の配置を行い、医療連携体制加算の概要に即し運営業務を実施していくものとする。

さらに平成 29 年 4 月 1 日には、社会福祉法人制度の改革が示されており、財務規律の強化においては、社会福祉充実実残額(再投下財産額)の明確化、社会福祉事業又は公益事業の新規実施・拡充に係わる計画の作成義務などや、経営組織のガバナンス強化における理事会・評議員会の経営組織の在り方についても改正されることから、役員への研修等へも積極的に取り組み法人運営、経営が利用者主体の健全な経営・運営が持続できるよう役職員一丸となって取り組んでいくものとする。

指定相談支援事業所「ゆから」 事業計画

利用者がその有する能力及び適性に応じ、自立した日常生活又は社会生活を営むことが出来るよう保健・医療・福祉・就労支援・教育等の関係機関との連携を図りつつ、指定計画相談支援を当該利用者の意向・適性・障害の特性その他の事業に応じ、適切かつ効果的に行なう。又、利用者の意思及び人格を尊重し特定の種類や事業所に偏ることなく、公正中立に行いサービス計画の評価と改善に取り組む。

地域生活支援センター「あぷろ」 事業計画

地域生活支援センターあぷろが障害者総合支援法に基づく障害福祉サービス事業所として開設してから、今年が 10 年目の節目でありました。入所施設白老愛泉園の地域移行先として 5 棟のグループホームが設立してからは 4 年目の春を迎えます。利用者定員は 98 名となり、様々な人格や個性、障がい特性に対応した生活支援が求められると考えます。

本年、あぷろは支援の目標を「施設から地域へ」から「より良い地域生活へ」とシフトチェンジし、地域の中で利用者が安心して安全な、普通の生活を送られるよう支援体制・支援内容並び生活環境の充実を図ります。

あぷろの支援体制は、3 課制へと組織改正を行い、新たな地域生活支援体制を構築し、運営をしていきます。

支援内容としては、新たに看護師を配置し、従来行っていた栄養管理業務を活用する形で、利用者の健康診断の結果を基に、適切な健康管理・維持業務を日常支援員に取り入れることで、心身ともに安定した生活の支援を行います。

生活環境の整備として、建築年数の古い住居から新しい住居への移転や、青葉ハウスの次年度建替えに向けた施設整備計画の策定など、住環境整備を重点的に行います。短期入所事業は、従来の「はぁもにい」における単独型の外、昨年度開設したグループホーム「かい」の中に併設型事業所を稼働し、生活体験を含めたニーズに即した運営を行います。

障がい福祉サービス事業 多機能型事業所 ポプリ 事業計画

白老町に日本で 5 番目となる国立博物館が 2020 年に開設されることが決まり、国内外から 100 万人の観光客がこられると予想されています。ポプリの授産活動にとってこのチャンスを活かし、白老を代表する土産菓子を作ることで、利用者の工賃財源の確保を目指して行きたいと考えております。そのためには、選ばれる菓子製品の開発と生産環境改善整備を平成 28 年度より実施していきます。

又、生活介護事業では引き続き利用者個々の個性や願いを受け止めながら、創作活動や調理体験、軽作業など活動に多様化を進めうるおいある日常生活を目指します。

障がい福祉サービス事業 生活介護事業所 愛泉園 事業計画

生活介護事業として愛泉園が担うべき課題をしっかりと見据えて、平成 28 年度は取り組んでゆきたいと考えます。利用契約者も定員 20 名に対して 26 名となっており、この地に入所施設として果たしてきた役割を尊重しながらも、サービス提供の体制が変移するなかで、受け継いだ立地環境と現在の利用定員 20 名という規模のサービス提供に対する基本的な考え方については、これまでのものを踏襲し、利用者一人一人を尊重し、大切にするという思いを第一に優先し、これを具現化するための取り組みをこれまで以上に行いたいと考えます。

それぞれが歩んできた人生を尊重し、今、そして未来に対して希望を持って生活して行ける勇気と共に支え合える安心や信頼を築いてゆくことでお互いに成長し合える関係を築いてゆけたらと考えます。

昨年度は給水管の更新工事、事業所建物の屋根塗装工事などの設備関係の更新、敷地内樹木の整理伐採、遊歩道整備など環境面を整えました。大きな改修の必要性があるわけではありませんが、小規模修繕などは今後も計画性をもって実施して行きます。

また、保有車輛におきましても、腐蝕等による劣化、使用期間が 10 年を越すなどの理由により新たに更新を計画し、安全面においても対応します。

利用者支援においては、これまで以上に各活動におけるプログラムの充実を図り、行事等の実施においては、安全性に配慮し、個人を尊重した計画性あるものを立案し、就労能力のある利用者については就労の機会を提供します。また、個人の可能性を引き出すためにアート活動にも力を入れて創造豊かな生活を送れるように支援を行います。また、事業所内研修等の実施を計画して人材育成に努め、相談援助業務としての在り方についての考え方や困難なケースへの職員の支援技術向上を図ることで、重度利用者に対し、より適正な対応ができるように努めます。

障がい福祉サービス事業 生活介護事業所 みらいえ 事業計画

生活介護事業所「みらいえ」が開所して 4 年目を迎えます。刻々と流れる時の中で、この間に新たな利用者との出会いがあり、一方で残念ながら利用を断念された利用者もいます。「みらいえ」が歩んできた 4 年という歴史があります。利用者一人一人もそれぞれの歴史があります。

時の流れを表す言葉に「過去」「現在」「未来」があります。「未来」という言葉の響きには希望、ワクワク感が感じられます。過去は変えることができません。しかし、未来は変えることができます。みんなで未来を紡いでゆく願いを「みらいえ」という名前に込めています。そのような関わりをこの先も作ってゆきたいと考えます。

50 名の契約利用者に対して一人一人に合った支援を行うべくケース会議等を通してニーズの把握を行い、共に歩んでゆく支援を行います。多様化する利用者の持つ本質的な能力や嗜好などを吟味しながら活動内容も幅広く用意し、本人の状況に合わせた支援を行うことを考えます。また、マンパワーを高めるための職員のスキルアップについては、事業所内、法人内あるいは外部団体等の研修等を通して自らが学び、実践する姿勢を尊重し、計画性ある研修を実施したいと考えます。

地域の中で暮らす一人一人としての役割を実感するように季節折々の行事を催したり、近隣住民との交流を実感するように様々な催しに参加する機会を提供したり、社会の一員としての貢献を実感するように就労的な活動を取り入れるなどニーズに応える支援をめざし、共に未来へ進んでゆきたいと考えます。

1) 厚志

ありがとうございます。
寄付者及び寄贈者(敬称略・順不同)
(平成27年12月1日〜平成28年3月31日)

山内典子様・萬谷田鶴子様
滝吉公雄様

各施設の動向

法人本部
12月14日 第3回評議員会
第4回理事会

1月5日 年頭所感
3月18日 第4回評議員会
第5回理事会

愛泉園
12月22日 クリスマス会
1月14日 新年会

2月3日 屋内活動
2月15日 バレンタイン
3月3日 冬季シク
14日 ひな祭り
ホワイトデー

ポプリ
12月10日 ななかまどクリスマス会
11日 クリスマスフェア(〜25日)
生活介護クリスマス会

17日 利用者冬季手当支給
白老中学校合格祈願餅つき
25日 札幌年越し餅販売(どさんこプラザ)
27日 札幌年越し餅販売(どさんこプラザ)
年末年越し餅製造・販売(〜30日)
ななかまど初売り

1月6日 ななかまど初売り
2月4日 ポプリ新年会
9日 南蛮釜納入
29日 三者面談開始(〜3月12日)
*月一回す

みらいえ
12月19日 クリスマス会・忘年会
どさんこプラザ販売・きたキッチン販売

1月8日 新年会
14日 成人の祝い
避難訓練(火災)

2月5日 雪まつり見学

15日 バレンタインイベント
18日 水滸祭り見学
26日 避難訓練(地震・津波)

3月3日 ひな祭り
14日 ホワイトデーイベント

あびる 第一支援課

12月19日 クリスマス会
12月31日 年末未帰省者登別温泉泊(〜1月2日)

あびる 第一支援課

12月25日 各ホームクリスマス会
12月31日 年末未帰省者登別温泉泊(〜1月1日)

各施設の予定

法人本部
4月1日 法人交流会

愛泉園
4月 屋内活動
5月 花見
6月 避難訓練
健康診断
7月 屋外調理
8月 屋外活動
8月 屋外活動

ポプリ
4月1日 新利用者歓迎会
5月 桜見学
6月 ヨモギ採取開始
6月 果物狩り

みらいえ
4月 水芭蕉見学
5月 桜見学
6月 いちご狩り

新任職員紹介

Table with 3 columns: Name, Age, Position. Includes staff from 本部, 愛泉園, and 米本.

愛泉園しいたけ終了のお知らせ

愛泉園にて約30年間続いた椎茸事業は、昨年度をもちまして全てが終了いたしました。長年に渡り培ってきた技術などもあり、事業所が日中系に移行したあとも残していけないものかと方法を模索しながら続けてきました。ですが、どうしても管理が行き届かないことや、冬季のボイラー使用などの問題もあり、これまで受け継がれてきた歴史に幕を引かせていただく事になりました。「愛泉園ブランドの椎茸」として、皆様に愛されご愛顧いただき、職員一同感謝の気持ちでいっぱいです。今までも世話になった皆様に対し、心からお礼申し上げます。ありがとうございました。

地域特性を生かした商業観光・雇用創出事業 助成金 南蛮釜導入(菓子専用釜)について

『地域特性を活かした商業観光・雇用創出応援事業』(二次募集)に応募し、申請したところ白老町より採択をいただき12月末、200万円の助成金の交付決定を受ける事ができました。2020年の国立博物館の開設に向け、白老町の土産製品(菓子製品)の開発と充実化を図り、更に完成度を高め安定した製品を目指すため、2月上旬、交付金を活用し南蛮釜(菓子専用釜)の導入を行いました。同月の中旬には東京から技術者を要請し、3日間の技術研修を受けました。進捗では、地域資源や地場産の材料を使用した焼き菓子など、地域性や独自性を追求した数種類の試案があがっており、将来的に『白老町の銘菓』となる製品づくりを目指し、事業所全体でその研鑽を進めているところです。



編集後記

今回の機関紙「はあもにい」では、各事業所での行事の紹介を多岐にわたり掲載しました。どの事業所も利用者の皆さんが楽しめるよう工夫して、皆さんの笑顔が見られていいと思います。今後も利用者の方が楽しめる行事等を計画し、機関紙「はあもにい」をご覧の皆さんに笑顔をお届けることができるように、利用者皆さんへのサポートを充実させていきたいと考えております。



生活介護事業所「愛泉園」 支援主任 丸山貴俊
機関紙「はあもにい」編集委員 堀 功路